

病害虫防除所情報 第3号

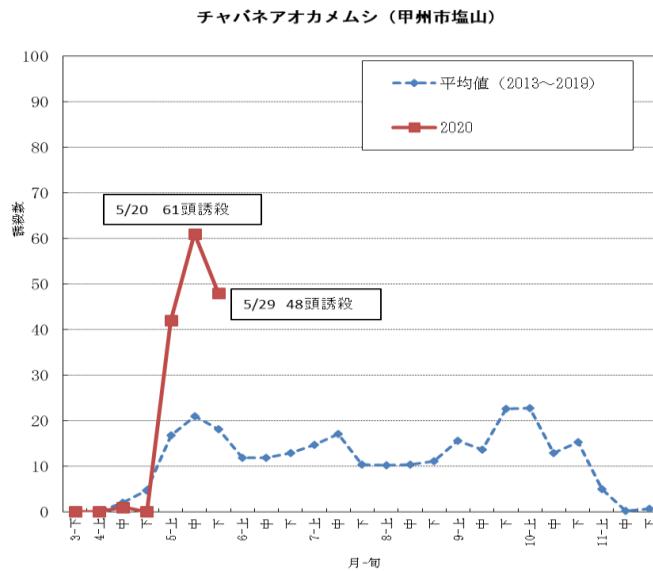
令和2年6月1日

山梨県病害虫防除所

【果樹カメムシ類の発生状況と防除対策について】

〔発生状況〕

- (1) 定点調査ほ場におけるフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年と比べて大幅に増加している（図1）。
- (2) 前年、秋季におけるフェロモントラップへの誘殺数は多く、また記録的な暖冬であったため、越冬個体数は多いとみられる。
- (3) 本年は、スギ・ヒノキ花粉の飛散数は過去5カ年の中では一番少なく（山梨県衛生環境研究所調べ）、カメムシの餌となる球果の形成量は少ないことが予想されるため、今後も果樹園への飛来が続くものと考えられる。



(山梨県病害虫防除所調べ)

図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

〔防除対策〕

- (1) 果樹カメムシ類の飛来状況は、地域や園によって大きな差があるので、夕方～夜間及び早朝に園を見回って確認し、飛来状況に応じて地域ごとに一斉防除を行う。
- (2) 山間部やスギ、ヒノキ林に近接する果樹園では、被害が多くなる傾向があるので注意する。
- (3) 薬剤散布はカメムシの動きの鈍い早朝、または果樹園への飛来の多い夕方に行うと効果的である。
- (4) 防除薬剤は表1を参照する。薬剤散布にあたっては、使用基準を厳守し、飛散防止対策を徹底する。
- (5) 合成ピレスロイド剤は、果樹カメムシ類に効果が高いが、天敵に及ぼす影響も大きく、多用するとカイガラムシ類やハダニ類の多発生を招く恐れがあるので過度の使用は避ける。

表1 カメモムシ類の主な防除薬剤 (令和2年5月現在)

分類	RAC	薬剤名	適用作物名							
			希釈倍率、使用時期／本剤の使用回数							
			スモモ	モモ	ネクタリン	ブドウ	オウトウ	カキ	ナシ	リンゴ
ネオニコチノイド系	4A	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 前日まで／3回以内	2,000倍 前日まで／3回以内	2,000倍 前日まで／3回以内	2,000倍 前日まで／3回以内	2,000倍 前日まで／2回以内	2,000倍 前日まで／3回以内	2,000倍 前日まで／3回以内	2,000倍 前日まで／3回以内
合成ピレスロイド系	3A	テルスターフロアブル	※※	3,000倍 前日まで／2回以内	3,000倍 前日まで／2回以内	※※	3,000倍 前日まで／2回以内	3,000倍 3日前まで／2回以内	3,000倍 前日まで／2回以内	3,000倍 前日まで／1回以内
	3A	アディオオン乳剤	-	2,000倍 7日前まで／6回以内	2,000倍 7日前まで／3回以内	-	-	2,000倍 7日前まで／5回以内	2,000倍 前日まで／2回以内	-

※オウトウ、スモモなど果実汚染、果粉溶脱が懸念される樹種では薬剤選択には注意する。

※※作目登録はあるが、適用病害虫としての登録がない。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/yamanashi>



チャバネアオカメモムシ

クサギカメモムシ

ツヤアオカメモムシ

山梨県で発生する主な果樹カメモムシ類



「吸汁痕に汁液が固まったヤニが付着することがある」



「吸汁痕はくぼんだり、果肉がスポンジ状に変質する」

モモの幼果における被害状況

(写真：果樹病害虫診断サポートシステムより)